－満月と秀吉の満面の笑み－

「月百姿・志津ヶ嶽月」（草津市蔵）



この作品は、幕末から明治時代の浮世絵師・月岡芳年（つきおかよしとし）が「月」にちなんだ説話や伝説などを、１００枚の絵に表したものです。その中の一枚に、大河ドラマ「豊臣兄弟！」で話題の、豊臣秀吉を天下人へと押し上げた戦いに焦点を当てた「月百姿　志津ヶ嶽月」があります。

秀吉は「一の谷馬蘭後立付兜（いちのたにばりんうしろだてつきかぶと）」を被り、甲冑に身を固めています。宿敵柴田勝家を打ち破り、喜びに満ち溢れた表情で法螺貝を吹き、味方に勝利を伝えているのでしょうか。そのリアルな描写からは、戦場の歓声と法螺貝の音が聞こえてきそうです。

秀吉の背景には月百姿のシリーズ名のとおり、賤ヶ岳の奥から上った月が麓に広がる湖に反射して、その影を落としています。特に満月の明るさとその光で照らされる湖が、美しく表現されています。

芳年は、浮世絵の需要が失われつつあった幕末から明治時代に異例の人気を博し、「最後の浮世絵師」と称された人物です。最晩年に病に伏せながら完成させたといわれえる「月百姿」では、さまざまなモチーフを手掛け、落ち着いた色使いの作品集になっているのも見どころの一つです。

（令和８年１０月・草津宿街道交流館　八田 将史）